

わが子への愛を

世界のどの子にも

— 国際 児 童 年 —



今年が国際児童年です。1959年、国連が児童権利宣言をきめて20年目にあたります。これを記念して本県でもいろいろな事業が行われます。児童生徒に船内での集団生活を体験させ健全育成の一助とする「少年の船」を沖縄県へ派遣するほか、「少年の主張熊本県大会」や県内各地で国際児童年記念集會が開催されます。

わたしの
郷土

本渡市立本渡南小学校 六年 上 中 恭

「あっ空気がおいしい。」僕はどんなことかわからずこの観光客は、一体何を言っているのだろうとおもいました。ある日バスセンターに母を迎えに行っている時のことでした。母がこないで、センターの中をうろついて待っていると、熊本からの急行バスが着いて、バスの中から出て来たお母さんぐらいの年の人、五・六人の中の一人がそう言いながら下車しました。僕にとって空気がおいしいなんて全く感じないこの空気も味があるのだろうか、と思い一人で考えていました。間もなく母が帰って来たので、バスから下りるのを待ちかまえて、そのことを話しました。すると母は、家に着くまで都会の空気を話してくれました。発電所のそばや大きな工場のまわりは洗濯物も白が黒ずんでくることが、鼻の中も黒ずんでしまうこと、そのほか本当に空気がおいしくないことも初めて知りました。

毎日住んでいる僕達のこの町も空気がきれいで、海の水もとてもきれいで、海水浴ができることも幸福だと思いました。本渡港は少しにがり、油くさくなってきていますが天草島全体からすると、とても美しい海、美しい山、きれいな水と、公害もなく住みよい島だと思います。この美しい自然は一人一人が口頃の心がけをよくして、ごみや汚物をすてない。流さない。見つけたら拾う。と言った小さな心が、もっともっと美しい自然を保つことだと思えます。山の木一本、草一本にしてもやさしい人間の心がなければいけないと思います。特に僕達天草は自然に恵まれています。この自然を汚さず、もっと美しくしてやるように皆で協力しバスセンターで聞いたあの一声を、いつまでもいつまでも保ち続けていくことが、この天草島に住む僕達の任務であると思えました。今朝もおいしい空気を胸いっぱいにして学校へ来ました。又明日も胸いっぱいにしていきたいものです。